

「芸術と温泉の秋」甲斐路...

旅行部長 宮川修一

コロナ禍は旅行の様相を変え、特にバスでの団体旅行には、大きなダメージを与えました。

今年度から健友の旅行部長を務める私の最初の事業が、四年ぶりの宿泊旅行再開となり、参加者数の見通しや感染対策面での不安があったため、比較的近い甲府、河口湖を回るプランとなりました。

申込み締め切り時には 28 名あった**参加**が実施段階では **22 名**となり、一人二座席利用のバスです。これは東京都の観光バス事業への助成金により可能となったもので、本来ならば中止せざるを得ない状況でした。

令和5年11月9日、当日の朝は、やっと秋めいた**好天の下、首都高速から中央自動車道へ**と快調に進み、ゆったり車内は参加者の自己紹介やらで、和やかに目的地を目指します。

最初は、信玄公を祀る武田神社の向かい側には、信玄ミュージアムがあり、常設展は無料です。神社境内を含む一帯は躑躅が崎館跡となっており、その復元整備が進められています。

イチョウ並木が多い甲府市内を進み、**次の目的地山梨県立美術館**では、ミレー館を含む常設展を



六十五歳以上無料チケットで、平日の午後、思い思いにゆっくりと鑑賞しました。美術館の周囲は芸術の森公園となっており、日本庭園やバラ園などを巡る散策路には植栽と彫刻が配されて、彫刻「ザ・ビッグアップル 45」の向こうには富士の頂がありました。

夕刻早めに石和温泉の宿「石和びゅーほてる」に到着。早速、入浴タイムとなり、一休みして宴会へと流れます。宴会場は大広間を仕切った舞台付きで、一人用のテーブルと椅子の席です。

茂木会長のあいさつと田中副会長の乾杯の後、会長から差し入れの銘酒「紀土」を徳利に分けて回し、次々に出される料理に舌鼓に打ち、やがてカラオケ大会で盛り上がり、多すぎるリクエストに時間オーバーとなる宴会でした。

10日はあいにくの雨交じりで、忍野八海・河口湖畔ミューズ館で傘を差したり畳んだりの散策でしたが、外国人観光客が増え、賑わいが戻っているようです。幸いに与勇輝さんの人形館は貸切りのごとくで、人形の表情一つひとつを楽しむことができました。

富士山は雲に隠れていましたが、雨露を含んだ紅葉が季節の深まりを想わせる旅となりました。

今回の健友旅行を終えて、参加者の減少傾向、バス代、宿泊代の高騰など、これから旅行計画に多くの課題が示されました。長時間の乗車を避け、時間にゆとりを持たせるなど、旅行部では会員の皆さんに説明していただけます。長時間の乗車を避け、時間にゆとりを持たせるなど、旅行部では会員の皆さんに説明していただけます。皆様の忌憚のないご意見をお寄せ下さい。



「石和温泉＆山梨県名所観光旅行」－宿泊再開…

太野垣 孝範

2019年10月以来の健友“宿泊旅行”です。

私にとっては日帰りも含めて初めての参加となります。

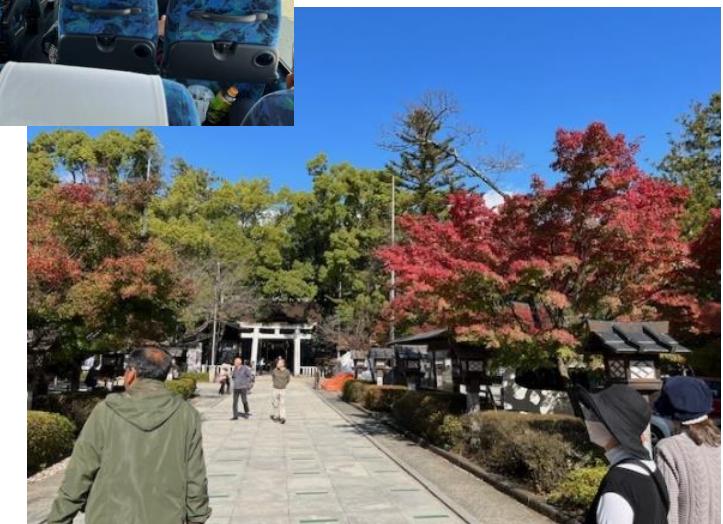
そして、その日程は、一日目が武田神社(武田氏館跡に創建された神社)と山梨県立美術館(ミレー美術館)。

二日目は、忍野八海と与勇輝館で宿泊は、石和温泉(石和びゅーほてる)です。

参加者は22名と従前の宿泊旅行に比べ、かなりの少人数。バス1台での旅行も初めてのことだそうです。

バスの定員は60人、一人2席以上とかなり贅沢な座席配置となりました。採算は大丈夫なの。ちょっと心配ですが、東京都からの補助金でどうにか凌げたようです。新型コロナ感染予防対策として乗車人数をバス定員の1/2にする。このことにより生じる追加負担となる経費を補助助するものです。

全員揃ったので、定刻より早く出発。天気は、昨日の夏日から一転秋の気候に。気温15度、曇り空。でも、車内は冷房中。開催を待ち望んだ参加者の熱気なのでしょうか。バスは西池袋ランプから高速に入り、補助金交付の条件である都内施設の石川PAを経て山梨県へ。今回は車内での酒は各参加者の自主規制によりなし。車内BGMはニューミュージック。事業部員のお話と相まって、青春時代を懐かしみ心地よい時間を過ごせました。



期待の富士山は雲に隠れシルエットを挙む程度でありましたが、**笹子トンネルを抜けると青空がのぞいていました。** 笛吹市での昼食を済ませ、**武田神社につく頃には、快晴、紅葉ちらほらと。** しかしながら1時間強の参拝時間を持て余し早く出発。武田氏の館跡にしては、そんなにひろくないなあ(個人の感想です)。本当のところは、どうなんでしょうね。

山梨県立美術館は、65歳以上入場無料とのこと。有料入場者は一人だけでした。山梨県民の方ありがとうございます。芸術には縁も興味のない小生としては、自ら美術館へ足を運ぶことなどなく、このような機会がない限り芸術に触れあうことは無いかも知れません。ところで、絵画の額縁は美術館が用意するのですかね。学芸員さんに伺いました。絵画の額は所有者が変えたり、変えなかつたりで、額付きのまま購入しており、額の経緯は不明とのこと。山梨県立美術館所蔵品のうち額の経緯が明らかなものは2点。当美術館が用意したものと、作者が当時の展覧会に出品した際の額がそのまま使われているものだそうです。ここでも時間に余裕があるので、**隣接する文学館**を見学する参加者もいました。**ここも65歳以上無料**で、心の中では、ラッキーと申し訳ないが入り乱れています。

二日目は、あいにくの雨。忍野八海はかなり前に訪れたことはありましたが、今日はその時と違う景色が広がっていました。雨の平日にもかかわらず、多くの観光客。そして多くの言語。広くて明るいお土産屋さん、道の両側に連なる中小のお店等など。思い描いた景色と違った。**静寂やノスタルジック感は味わえないが、観光地の経済が活気づく姿を体感する**ことができました。

河口湖ニュース館・与勇輝館は、**創作人形作家・与勇輝氏の作品を展示している**ところです。この施設も、私にとっては山梨県立美術館の見学と同様に縁遠いものでしたが、人形って生き物なんだなあと感じたところでした。特に昭和初期を想わせる可愛いわらべ人形や絢の着物を纏った者たちが創り出す空間に在っては、生まれ故郷の丹波篠山が目に

浮かび、長い時の流れを思い起こし、縁あり板橋区役所職員となり、多くの人たちのお世話をいただきながら無事退職し、そして今日こうして仲間と楽しく過ごせる何気ない毎日を幸せと感じができる喜びに浸っていました。

さて、宴会でございます。団体旅行での宴会といえば、昭和の職場旅行が思い浮かびますが、今回は少人数でもあり和気あいあいの会となりました。(といえば、職場旅行は死語になりつつあるのかなあ。)

アルコールの量も会長からの差し入れの日本酒(紀土)と焼酎が1本、そしてビールが適量と、コロナ禍を経験し、大量のアルコールを浴びる機会からすっかり遠離っている我が身には、程よい酔い加減で身体に優しい宴となりました。余興としては、女性陣による「てんとう虫のサンバ」の歌と踊りありの“カラオケ大会”等となりました。

帰りのバスでの会長からの挨拶では、雨に洗われた紅葉を愛でることもでき、参加者も少なく和気あいあいの楽しい宿泊旅行となりましたが、一方では、健友の抱える厳しい現状について触れられておりました。

今回は、東京都の補助金もあったので、どうにか採算は合ったようですが。定年年齢の段階的引き上げ、再任用後も就労を希望する方の増など、会員の獲得が一層厳しさを増すように思います。加えて、事務局体制の維持など、知恵を絞っていかなくてはならないと役員として末席に名を連ねる我が身として感じ取った宿泊旅行となりました。





山梨県立美術館 にて



石和びゅーほてる にて



武田神社 にて



忍野八海 にて



河口湖ミューズ館
与勇輝館 にて



河口湖畔での昼食 にて